ダイヤワールド

城戸　輝零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ダイヤワールド

【Ｎコード】
Ｎ０３１８Ｐ

【作者名】
城戸　輝零

【あらすじ】
私、莉永！！、突然、ポケモンたちが住む、ダイヤワールドという、所にきてしまったの。そこには、優しい淳平って言う人も居て、一安心・・・
ポケモンの中には、人間にちっとも心を開けないルカリオがて、・・・・ポケモンたちと、莉永の戦いや、優しさのあるストーリー！

ダイヤワールド（前書き）

作『よろしくお願いします』

ダイヤワールド

『きゃ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜』

？？『大丈夫かね？ここは、ポケモン達のすむ世界！！『ダイヤワールド』だ』

『何々？ここドコ？』

私は、北原(きたはら)　莉永(りえい)１２歳！！

莉永『あの、あなたは、ってかどうして私がここにいるの〜』

？？『そうだ、僕の名前は佐久間(さくま)　淳平(じゅんぺい)です。ここの管理員をしています。多分、あなたは、今は、病院のベットの上でしょう・・・事故で、病院にいると思います、ダイヤワールドとは、夢をまだ叶えていない人が来るところです』

莉永『あの！！私には、夢がありません！！』

淳平『本当に？なにもほしくもないの？　』

莉永『はい！！ってポケモンってナンですか？一応聞いた事はあるんですけど』

淳平『ダイヤワールドは、君の世界から４億年後の未来に健在している場所です、今の、ユーラシア大陸でしょう』

莉永『４・４億年後？』

淳平『はい、これが、私のパートナーの、フワライドです』

莉永『この子がフワライド？』

淳平『ええ！！？何かがこちらに来る！！隠れていなさい』

莉永『はい！！』

淳平『何だね！！マンム～』

マンム～『えっと、新しい人間が来たと言うから、歓迎の準備が整ったので、呼びに来た』

淳平『えっと、莉永ちゃん出てきてもいいよ！！』

莉永『はい！！デカイな～』

マンム～『私の背中に乗ってください』

淳平『先に乗って、持ち上げるから』

莉永『あの、私スカート何ですけど、どうしましょう』

淳平『じゃ、この服に着替えて　！！！』

莉永『これ、可愛い！！』その服は、灰色の、服で真ん中に、ネクタイが着いていて、ズボンは、動きやすいジャージだった

マンム～『早くしないと、皆怒っちゃう』

淳平『よいしょっと』

莉永は、マンムーに乗った・・・・

そして、峠を越え、洞窟に着いた・・・

莉永『いっぱい、ポケモンがいる！！！』

淳平『だって、この洞窟は、ポケモンの住みかだから・・・』

ミミロル『あの、あなたは、心を許す相手がいますか？』

莉永『いるよ！！』

ミミロル『じゃあ、あの、険しいルカリオの心を説いてあげてください』

莉永『なぜ？』

ミミロル『前に、淳平さん以外の人間が来て、ルカリオを勝手に連れ出し、そしてルカリオに怪我をさせたの、だから、もう、人間に心を許す事は、無くなってしまった』

莉永『分かった、試してみる』

『ルカリオ！！』

ルカリオ『それ以上近づくな！！！！』

莉永『アーロンって言う人をしっていますか？』

ルカリオ『アーロン様！！あの、伝説のアーロン様ですか？』

莉永『私は、その人に会ったことがあって、その人がね、私に教えてくれた言葉があるの、それを聞いてもらってもいいかな？』

ルカリオ『うん』

莉永は到って冷静であった・・・

莉永『その人はね、『今の世界は、ポケモンと人間が支えあって生きている、たとえ、ポケモンが絶滅したら、人間は成り立たない、決して、むごいまねはしてはいけないよ！！　君が、ポケモンを傷つけてしまったら、謝り、するのだ、それが君ではなくても、それは、人間の責任だから、謝る、そして、罪を許してもらえって』だから私は謝ります。私じゃなくても、人間の責任だから、どうもすみませんでした、許してください』

ルカリオ『許すよ、君が、そんなに、謝ってくれたんだもん』

淳平『そうだ！！君には、パートナーが必要だね！！！じゃあ、ルカリオになってもらったら？』

莉永『それは、いい考えルカリオ、私のそばで一緒に戦ってくれますか』

ルカリオ『はい、私が、心を許した相手ですし、体を張って、お

守りいたします』

そして、人間とポケモンたちの宴が始まった

ルカリオ『これ、食べてください！！元気が出ますよ』

莉永『その気持ちだけ、貰うわ！、ルカリオ！あなたは栄養しゅっちょうなのですから、あなたが食べなさい』

ルカリオ『はい、ありがたくいただきます』

そして、ルカリオは、涙を流しながら、木の実を食べた・・・・

ルカリオ『ありがとう！！！私は、必ずあなたを守りとおします・・・・

敵参上！！だぜ（前書き）

作『今回は、違うパソコンから、次話投稿しております～以外に楽しいです』

敵参上！！だぜ

順平　『莉永ちゃん、おはよう！！！！』

莉永『私、あのまま寝てしまったんですか？』

順平『まあ、そんな感じですね』

・・・・・・・・・・・そうだったんだ～

ルカリオ『おはようございます、ご主人』

莉永『ルカリオ！！！私のことは、『ご主人』と呼ばないで、『莉永』と呼んで！』

順平『そうしないと、変な関係柄になってしまいます』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・へぇそうだったんですね

莉永　『ルカリオ早速特訓だよ』

ルカリオ『わかった、莉永』

莉永『私のこと、『莉永』ってよんだよ～～～～～』

湖・・・・・・・・・・・

莉永『最初は、はどうだんの練習をしようか？』

・・・・・・・・・・・・・・・分かった

莉永『きゃあああああ、ルカリオが、波動で、語りかけてくれた～』

じゃあ、指令頼む

ラジャ～

莉永　『そうだ、ルカリオ、私は戦いのとき、波動で、指令を出すから・・・・よろしくね』

分かった・・・・・

ルカリオ！！！はどうだん

ドッカ～ン

すごいよ

指令に従ったまでのこと・・・・

かっこいいな～って、次は、みずのはどう

ドヒュ～ン

すげ～

ルカリオ『まあまあの出来だな』

莉永『厳しいな～』

順平『莉永ちゃん!!、敵が現れた、すぐに、研究所へ来てくれ』

ルカリオ行くよ

YESマスタ～

マスタ～もやめて～

ルカリオ『はいはい』

研究所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ムウマージ『・・・・・・・・・・・・・・・・・』

???『いけ!!!ムウマージあくのはどう』

莉永『ルカリオ』

いくよ!!!!!!!!!!

分かった・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

???『ムウマージ、あくのはどう』

ルカリオ」、はどうだん

ドカ～ン

順平『すごい、一発で、ＫＯするなんて・・・・、ルカリオが、パートナーになってよかったな』

莉永『はい！！！！！！！！、ルカリオありがとうね』

・・・・・・・・・・・・以外に、いい出来だった、良かった

順平『波動で、話しているの？すごいね～僕のことなんて思っているか聞いてみて』

ルカリオ！！！、順平さんのことどう思っていますか？

馬鹿で、あほで、ごうまんで、変態、ケチなやつだと思っている・・・でも、一生懸命なところは、褒めるが・・・

莉永『このまま言っていいものなのか？』

順平『言って！！！！！！！！！何でもいいから』

莉永『馬鹿で、あほで、ごうまんで、変態、ケチなやつだと思っている・・・でも、一生懸命なところは、褒めるが・・・と言っていますが～』

順平『ひどいよ～』

ルカリオの友達（前書き）

作『はろ～　作者の皆さん！！！　ルカリオは、やっぱかっこ良いと思いませんか？？』

・・・

作『何か、出してほしい、ポケモンがありましたら、感想ください』

ルカリオの友達

順平『おはよ～って、もういないし・・・・・・・・』

莉永は・・・・

莉永『どうしたの???　ルカリオ、何で、こんなに早く出かけるの???』

ちょっと、友達に会わせたい、莉永なら、心が分かるはずだ

?????

莉永『名前は何????　種類は』

えっと、多分　ミー　という名前で、ミューツーだ

莉永『ミューツーって　あの、伝説のポケモンだよね』

そうだ・・・それがどうした・・・・

莉永『だってさ～、何か、あった時に、仲間に入れたら、強いから大丈夫かなって』

まあ、あいつは、小さい時から、俺達よりも、5倍くらい強かったからな・・・・・

莉永『そうなんだ～～』

着いたぞ・・・・

ミューツー、私の、主人の莉永だ

ミューツー『お前も、変な主人を取るようになったのだな』

莉永『そんな事、言わないでよ、ルカリオは、私を信じてくれたんだよ、そんなこともう絶対に言わないで』

ミューツー『凄い、信じようだな・・・・信頼している証拠だな』

莉永『私は、ルカリオとは、ちゃんと、会話できるんだから』

ミューツー『凄いな』

一方、順平は

順平『どうしよう、ルカリオもいないし、ポケモン達に探させたほうがいいのだろうか』

ミミロル『順平さん、莉永さんから、手紙を預かっていますけど』

バシッ！！

順平『貸して、えっと、ちょっとルカリオとピクニックに行きます　心配しないでくださいね！！！　だって、だから大丈夫だ～ミミロルありがと』

ミミロル『・・・・・・』

片思い中か・・・・

ミミロル『そうだ、順平さん、莉永さんが言ってたけど、莉永さんは、片思いの彼が居るんですって、いいですよね～』

ガ～～～～ン

一方、莉永は・・・・

ミューツー『あの、今の話感動したのだが、私を、あなたの、ポケモンにしてくれませんか？？？？？』

莉永『ラッキー、私も、ミューツーが、チームに入ってくれることを願っていたんですけど・・・・』

こうして、ルカリオの他に、ミューツーが、莉永のポケモンになりましたとさ

順平の過去　（前書き）

作『みなさん、やっとダイヤワールド　次話投稿できました』

莉永『作者が遅いだけでしょ』

作『こんなひとは、放っておいて、ダイヤワールド第４話始まります』

順平の過去

順平『よかったね、莉永ちゃん！！強い仲間が出来て』

・・・・今更かよ！！

莉永『はいはい、ってか、疑問あるのですがいいですか？？？？？』

順平『どうぞ』

まあ、どおってことないのだけどね

莉永『なんで、順平さんは、ここの、管理員なのですか？？？？？』

！？！？！？！？！？！？！？

順平『私は、昔捨て子でね、ここの管理者の人が助けてくれたんですよ、で、その人が死んでしまい、ここを守る人が居なくなったので、僕が管理人になる事を選んだんです、その人には、恩返しをしなければなりませんでしたから』

長文だった〜　ちょっとめんどくさくなっちゃったな〜

ルカリオ『何か来る！！！！！！！！！！！！！』

ミュウツー『私も感じた、昔からの仲間だけはあるな！！！！』

おもしろい！！！ってかどんだけ前から仲間なんだよ（笑）

敵『はろ～』

ミュウツー『はどうだン！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！』

ドッカーン

ルカリオ『みずのはどう』

ドッシーン

敵『サイコウェーブ』

2匹ともひらりとかわし

ミュウツー・ルカリオ『はどうだん』

ドッカーン

莉永『お見事お見事！！！！！！！！！！！！！！！チームワークよかったよ』

ミュウツー『まあな、あっちの敵が弱いだけ』

まあ、それも当てはまるんだけどね

敵からの手紙

莉永『順平さん！！！これ、手紙届いていましたけど』

！？

順平『ここには、手紙は来ないはずなんだけど・・・・・』

！？まさか

じゃあ、何できているのよ

順平『空けて読んでごらん！！！！』

パカ

手紙見はこういう内容だった

順平へ

私は、ダイヤワールドに住んでいるものだ

ここの地域は（ダイヤワールドは）私のものだ

後５日で、ここから出て行くように

してくれよな

ではな、
もし、出て行かない場合は、ポケモンで攻撃するから
一応、言っておくが、
私は強いからな
J
莉永『『私は強い』って自画自賛じゃん』
・・・・・・・・・・
順平『だね〜、でも、少々強いかもしれないけどね』
・・・・・・・・・・
莉永『順平さん、その、自画自賛の人は、なんのポケモンを持っているの？？？』
・・・
順平『えっと、ジュカイン・ラグラージ・エレキブル・レックウザ・ラティアス・ラティオスを、強く育てている』
莉永『でも、こっちには、ルカリオとミューツーがいるのに、やっぱ勝てないの？？？どうすれば、その自画自賛に勝てるの？？？』
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

順平『強い、仲間を作る事が大切だ、伝説ポケモンを増やさない事には、あっ、明日朝１０時にダイヤ山に登ってこの言葉を、それに向かって叫ぶんだ！！『超克せいよ、時空の定めよ、伝説のポケモンよきてください』ってね、そうすると、伝説のポケモンが現れる』

！？

順平『５００年に一度しかないチャンスだ、、この機会をのがすのは、あまりよくないことだ、でも、伝説の人がいえば、必ず現れる、きっと』

！？

莉永『で、伝説の人って誰なのですか？？？』

順平は、莉永に指を指し

順平『君だ』

といった

！？

莉永『私が行けばいいんですね！！！それで、終わりなのね』

順平『そうだ、頑張ってきてね、敵が来たらルカリオが、戦ってくれるから、すこしは、安心だけどね』

心配してくれていたんだ

莉永『私、行ってくる』

最大のチャンス

莉永『じゃあね～～～』

・・・・

ルカリオ！！あの山ってドコ？？

名前も覚えていないのか？？？

うん！！！

よくはっきり言うな～～、

えへっ

ほめているんじゃないんだからな

・・・

あの山が、ダイヤ山だ

でか～～

あの山の標高は、５０００ｍぐらいあるし・・・

もしや、これ、自分の足で登るの？？？

ちがう、はどうだんでとばすぞ

莉永『なんか、嫌だな～～～～～、痛そうだし』

それは、何か違うぞ

違う？？何が？？私には、全く分からない～～

・・・

さあ、はどうだんで、飛ばすぞ～～

ドッカ～～～～ン

莉永『もういや～～～～～～～～～～～～～～～～』

頂上・・・・・・・・

莉永『もう、はどうだん怖い！！！』

すまん、やりすぎた

そうでしょ、ってか、どんな所に落としてんねん

バシッ

すまん、水たまりに落とすつもりはなかったんだが

それでも、濡れたじゃん

すまん

でも、もういいや

もうちょっとで、１０時だ

そうか

１０時・・・・

莉永『超克せいよ！時空の定めよ！！！！伝説のポケモンよきてください 』

ぴかっ

！？

ルカリオ『伝説のポケモンが来た』

莉永『マジで？？？』

コクリとうなづく

伝説のポケモンが、前にそろっていた

アルセウス『願いを、言ったのは、お前か？？』

莉永『はい！！！！』

超緊張気味

アルセウス『何故、私達を呼んだ』

！？

ルカリオ『私から話します。この前、敵から、手紙がきまして、この世界を攻撃してくると書いてあったのです。なので、この私のマスターの莉永が、立ち上がったのですが、力が今のままだと足りず、だから、あるセウスさま達の、お力を借りようと、思いまして、ここに来たのです』

・・・・

アルセウス『力を、貸してもよいぞ 』

莉永のポケモン一時増えたり

順平『まだかな』

莉永『順平さんただいま！！！伝説のポケモン達をつれてきました』

・・・・・・・・

順平『居なくナい？』

莉永『私の、モンスターボールの中ですよ！！』

それならよかった

では、紹介します

莉永『えっと、アルセウスさん・ディアルガさん・パルキアさん・ギラティナさん・デオキシスさん・なのです』

強いのばっかじゃん

莉永『あと、私のミューツーと、ルカリオがいるので、百人力です！！！！』

・・・僕のことわすれてるよ

順平『僕のポケモンも、一応紹介しておくよ、バシャーモ・レックウザ・ダークライ・セレビィだよ！』

伝説のポケモンがいっぱい

これなら、絶対に敵に勝てるよね！！！！

でも、いつクルか分からないしね～～～

ルカリオ明日だ！！

本当？？

波動で分かる

すげ～って、私も、波動使えているけど・・・ね！！

敵現れたり・・・・・！（前書き）

作『読んでくれている皆様、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします』

敵現れたり・・・・・・！

莉永『明日でしょ？敵が来るの』

そうだ・・・・

順平『いった～、骨折れたかも～』

！？

ルカリオ！調べて！

完全に折れている！このままじゃ、明日戦えない！

どうしよう！

莉永『順平さん、あなた本当に骨折れてます！明日戦えません！何か、いい方法ありませんか？ってか、知りませんか？』

・・・・・・・・

順平『アルガス山のふもとに小屋がある。そこには、ポケモンと一緒に戦ったら世界で1番最強といわれている　ルバァさんがいる！その人に、助けを求めるんだ！俺は、知り合いだから、名前を言えば、多分助けてくれるだろう』

！？

ルカリオ！お願いできる？

いい！僕が行こう！

本当？でも、ちゃんと戦いには出てよ！ってか、それまでには、戻るようにしてね

わかってる！じゃあ、行ってくる！

と行って、アルガス山のふもとの小屋に向かって、走っていった

莉永『順平さん！これはめてください！そうしないと！痛いですよ』

！！！

順平『いたいのは、絶対に×９９嫌だから！はめます』

よかった、ちゃんと言う事聞いて・・・・

莉永『じゃあ、私寝ますね！』

順平『お休み～』

朝・・・・・

莉永『おはよう！』

順平『早速敵のおでましだ！あっ！莉永ちゃん！僕のポケモンも使って戦ってね』

りょうかいしました

敵・・・・・・

敵『やっぱり、撤去していないな！いくぞ～』

お～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ルカリオの行方

その頃、ルヴァの家に向かっているルカリオは・・・・・・・・・・・・・

ルカリオ『たぶんこの辺のはずなんだが、小屋がない・・・・・どうすれば』

!?!?!?!?!?!?!?!?

もしや、あれか?あの新築みたいな小屋・・・一応行ってみるとするか

トントン

??『誰じゃ?わしの知っている奴は、このダイヤワールドの管理者の『順平』だけじゃぞ』

ルヴァさん、私は、順平さんのつかいで、やってきました

??『もしや、ルカリオか?波動を使っておるな・・・・で、何のようじゃ、それに中に入りなさい』

えっと、今私のマスターと順平さんが戦おうとしている敵が居ますですが、昨日順平さんの骨が折れてしまいました。順平さんがルヴァさんあなたの力を借りてきなさいと言っていましたので、私が、順平さんの代理をすることにしたのです

ルヴァ『で、私の力を借りたいとでも？』

そうです。順平さんいや、ダイヤワールドに住むポケモン達のためにもよろしくおねがいします

ルヴァ『お前は、前に誰にも心を開けなかったルカリオであろう・・・この前聞いた話だが、人間の世界から、落ちてきた子に心を開いたそうだな・・・・・・その人は、やさしいのか？』

心が優しく、ミューツーの心まで、開いた私の自慢のマスターです

ルヴァ『あの、ミューツーまでの心を開いたのか・・・・・・私でも、無理だったあのミューツーをか』

どうか、一緒に来てください！！！そして、このダイヤワールドのために、一緒に戦ってください！！

ルヴァ『よかろう・・・・・おんぶしてくれたまえ、一緒に行ってやろう・・しかし、ポケモンのかずは？』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ディアルガ・パルキア・アルセウス様などの援助があります

・・・・・・・・・・・・・・・・・援助

ルヴァ『いいよ！やってやろうじゃないか』

！？

おんぶをして、管理局へと戻っていったルカリオ

一方、莉永達はというと

ルカリオが戻ってこない・・・・もしかしたら、てこずっているのかも・・・

敵『いい加減、退散したらどうだ？』

莉永『このダイヤワールドを守らなければ、今まで、一緒に遊んだり、戦ったりしたポケモンたちが、ここに住んでいるから』

！？

敵『うるさい！！！はやく退散しろ！！』

数分後・・・・・・・・・

マスターー

！？

ルカリオ！！はやく！！戻ってきてください

後ろに居ますけど

！？！？！？！？！？！？！？！？？！？

莉永『うわっ！！ビックリした！！ってか、後ろに居ないでよ！

！！！！！
』

すいません・・・連れてきました

順平『ルヴァさん！お久しぶりです。お元気でしたか？』

本当に、折れているのか？こんな元気で

莉永『ルカリオ！！！！行くよ！！！！ミューツーも』

ミューツーは、先に敵の様子を見に行っているから、心配しないでね！

了解！！！では、行ってまります

莉永『なんかあったら、波動で、私に伝えるのよ、それに無理は禁物よ疲れたら戻っておいで！』

はい

と、波動で伝えて、ルカリオは、飛び出していった

ルヴァ『えっと、パルキアは？』

順平『莉永が持っています』

！？！？！？！？！？

莉永『これが、パリキアの入った、モンスターボールです。よろしくお願いします。適度に休ませてあげてください』

ルカリオもそうだけど、パルキアなども、どうしてあの子の手にかかると心を開いて、モンスターボールの中に入ってしまうのだろうか・・・・・・・・

敵『早く・・・・撤退しろ・・・・・こっちだって、疲れてきてんだから』

そんなことは、こっちには、関係のないこと

まっていてね!!!敵さんたち!!!

パルキアの本性

莉永『ルヴァさん！！パルキアを出さないとルヴァさん！あなたがやられてしまいますよ！！』

『分かったぁ』と言うようにルヴァは慣れている手つきで、モンスターボールからパルキアをだし、戦い続けていた

莉永『ルカリオ！！』

戻ってきてください！もし隣に、ミューツーがいれば一緒にここに戻ってきてください

はい！マスター！！！ミューツーは隣にいます。一緒に帰りますよろしくお願い！ね！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

順平『莉永ちゃん・・・このバシャーモ使ってくれるか？この子は、敵を倒したくてうずうずしているのです。僕は骨折していて無理ですが、あなたならこの子を使いこなせるでしょう』

莉永『いいですよ！では、お預かりします』

バシャーモなんて持っていたんだ・・・初めて知った・・・

ルヴァ『パルキア！＜あくうせつだん！＞』

どっカーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーん

→字間違ったけどきみしませんー～

順平『そこはさ～気にしましょうよ』

なんか、順平にまでツッコミされた！！なんかすご～～く嫌な感じ！！

パルキアは、なぜか暴れだし飛び去ってしまったのであった

莉永『ウヴァさん！大丈夫ですか？？？』

ウヴァ『大丈夫じゃ！だが！パルキアが飛び去ってしまったからには・・・どうもこうもない！！申し訳ない』

そんなこと・・・私言ったっけ？？

こんなことすれば大丈夫なのに・・・なにかウヴァさん勘違いしているな・・・

莉永『パルキア！！』

とこの声は聞こえたのか天空からパルキアが舞い降りてきた・・・

なにかにイラついたのか、むしゃくしゃしているパルキアその本性は凄いものであった・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0318p/

ダイヤワールド

2011年10月7日23時44分発行